

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価 (3月21日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の意欲を高める新たな教育課程を編成し、確かな学力及び農業に関する専門性の向上を図る。</p> <p>②生徒の主体的な行動を促し、生徒会活動や農業クラブの活動を充実させる。</p>	<p>①4年間の目標の達成年度として、1人1台端末を活用した教育課程の運用・展開について検証する。また、全教科において問題解決型学習習得のための授業展開を進める。</p> <p>②農業クラブ活動でプロジェクト学習法を習得し、課題解決能力の向上を目指す。</p>	<p>①1人1台端末を活用し、各教科の目標を明確に提示した上、生徒がその目標達成に向けて自ら振り返り、考える授業を展開することができる、研修等の工夫を行う。また、授業観察での振り返りを活用し、授業改善することを通じて、生徒の問題解決能力習得を図る機運を高める。</p> <p>②農業科目でのプロジェクト学習法の定着から農ク専門研究部での応用研究に発展させるため、指導者及び生徒のモチベーションを向上させることを行う。</p>	<p>①生徒が自ら考え、主体的に取り組む授業を展開することができたか。また、授業力向上のための職員研修を適切な時期に行うことができたか。</p> <p>②コロナウイルス感染症対策を講じた上に、活動実績をあげることができたか。</p>	<p>①1人1台端末を活用した授業実践の公開や研修等により、端末を積極的に活用しようとする意識が浸透した。計画的に目的に見合った端末を位置づけることで、有効活用するタイミングを精査することができた。</p> <p>②学校行事や大会並びに農業クラブの各競技はほぼコロナ以前の体制になり、積極的に活動が再開され様々な大会で練習の成果を発揮し入賞を果たした。</p>	<p>①職員研修として、特定の教科だけでなく、幅広い実践例を紹介する必要がある。1人1台端末活用について学校としての目標を明確にするとともに、生徒対象のアンケートを実施してニーズや課題を把握する機会を設ける予定である。</p> <p>②コロナ禍で、生徒の活動が縮小し、部活動等の活動低迷及び部員数減となっているため、在校生や、新入生に対してPR活動をす。</p>	<p>①1人1台端末の授業への導入・活用されていることは素晴らしい。しかし、それに伴う教科や個人の負担も大きくなっていく。また、国が進めるデータサイエンスやAIは避けて通れないため、模索しながら進めてもらいたい。</p> <p>②学校行事・農業クラブ等の活動がコロナ禍以前の活動に戻りつつ活動の成果が発揮できてきた。しかし、その質及び量は以前と比較して戻らないケースが見られるため、アクティビティを高めるよう働きかけてもらいたい。</p>	<p>①1人1台端末の導入・活用が積極的になされていることは評価できる。今後は、引き続き職員全体の習熟度を上げることが課題となる。</p> <p>②コロナ禍以前の活動に戻りつつ活動の成果が発揮できてきた。しかし、生徒の部活動離れが広がっている点は残念である。新たな生徒活動の方策を模索する必要がある。</p> <p>③部活動等の活動低迷及び部員数減の対策を講じるとともに、各教科においてプロジェクト学習法の習得を勧め課題解決能力のさらなる向上を目指す。</p>	
2 生徒指導・ 支援	<p>①基本的な生活習慣を確立・定着させるとともに、規範意識の醸成を図り、部活動を活性化させ、豊かな人間性、社会性を育む。</p> <p>②インクルーシブ教育の視点にたった生徒一人ひとりの個性や状況に応じた生徒指導、支援体制の充実を図る。</p>	<p>①挨拶の励行や新たな生活様式の指導を通して、基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の定着を図るとともに、4年間の目標の達成年度として検証する。</p> <p>②インクルーシブ教育の視点にたった生徒一人ひとりの個性や状況に応じた生徒指導、支援体制の充実を図る。</p>	<p>①新たな生活様式の確立と、時間を意識した自己管理能力の定着の両立を目指し登校指導やSHRを活用する。</p> <p>②生徒支援体制の充実に向け、教育相談や三者面談、各学科会議等を活用し、生徒理解を進める。また、SC・SSWと情報共有しながら生徒の現状を把握し、支援する。えびな支援学校のセンター的機能を活用する等、個々の教育相談の機会と充実を図る。</p>	<p>①健康観察の習慣をつけることができたか。また、登校指導や声掛けを通して生徒の遅刻等の状況が改善されたか。</p> <p>②生徒支援体制を軸にした教育相談における実施状況、生徒情報の共有が機能したか。えびな支援学校との連携活動の実施回数はどうだったか。</p>	<p>①登校指導を週3回実施し、生徒への声掛けを行うことにより、遅刻や自転車事故防止など自己管理能力の向上を図ることができた。</p> <p>②組織的な生徒支援体制を構築した結果、昨年より詳細に生徒情報の共有を行うことができた。また、サポートドックの結果を活用し、声なき悩みに対して支援することができた。えびな支援学校とも引き続き連携を実施し、解決に向け協力体制を築くことができた。</p>	<p>①生徒の服装指導に関して共通認識が持てるよう担任だけでなく、教科担当とも協力し合い、全校あげでの指導体制としていきたい。</p> <p>②サポートドックなどに当たっては計画的に実施することで、SC・SSWの活用を有効に進める必要がある。えびな支援学校及び教育センターの教育相談等とさらに連携を深め支援が必要な生徒の支援体制を早い段階で具体的に進めていく。</p>	<p>①登校指導及び声掛け、遅刻や自転車事故等の自己管理の向上は、手間と時間がかかるが着実に結果が得られている。引き続きお願いしたい。</p> <p>②えびな支援学校との連携について、上手く支援体制が構築できている。今後も細かな支援できるようにお願いしたい。サポートドックの結果を活用し、声なき悩みに対して支援することができている。しかし、本人や保護者が支援を望まない場合の対応について確認を願いたい。</p>	<p>①生徒の自己管理能力向上に向けて学校全体で登校指導等に取り組んでいることは評価できる。服装指導に関する共通認識を図ることが課題となる。</p> <p>②サポートドックの結果を活用し、声なき悩みに対して支援することができたことは、SCやSSW、またえびな支援学校等と上手くサポート体制が構築されていると評価する。今後も生徒個々に細かな支援ができるよう課題となる。</p> <p>③今年度からすすめた教育相談コーディネーターを中心とした支援体制をさらに充実させ、えびな支援や総合教育センター等の外部機関とも連携し、課題のある生徒に対する支援体制を構築する。</p>	

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月21日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①体験的学習を重視し、勤労観・職業観を育成し、進路指導の充実を図る。  ②社会的自立に向けた教育の充実に取り組む。	①勤労観・職業観を育成するため、従来の方策に感染症防止策を盛り込み活動の継続を図る。  ②生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路説明会・進路別ガイダンスを計画的に行う。	①勤労観・職業観の意識向上を目指し、協力企業へのアプローチや生徒の事前指導を徹底し、新しい生活様式において体験できる体制を構築する。  ②面談等を通じて生徒一人ひとりの進路希望を把握し、実現に向けたサポートを全職員で実施する。	①農業体験活動やインターンシップ活動等への参加者が増加したか。  ②個別に丁寧な進路指導を行い、生徒の希望どおりの進路実現が図れたか。進路別説明会が計画どおり実施できたか。	①企業や実習先と連携を図り、充実した活動ができた。インターンシップへの参加者は昨年と変化はなかったが農業体験活動への参加者が15名と大幅に増加した。説明会は予定通り5回実施した。 ②生徒の希望に沿った進路実現が図れた。昨年度より放課後やLHRを通して進路ガイダンス等を増やし、充実した進路指導ができた。	①受入企業・実習先も増え、生徒の参加者が増えてきているので、より一層企業や実習先と連携を図り、充実した活動をしていく。単位認定者も増え、継続して指導していく。 ②就職希望者全員が内定、大学進学実績も2年連続増加している。この状況を継続していくためにより一層きめ細やかな指導が必要である。	①農業・企業の体験学習の参加者も増加し、受入れ企業や実習先との連携・指導体制が着実に強化されている。今後も継続した指導を望む。  ②就職希望者の全員内定、大学進学実績も向上しており、支援体制がうまく機能しているものと考え。今後も最新の指導を望む。	①インターンシップへの参加者は変化なかったが農業体験活動への参加者は大幅に増加し、指導体制が着実に強化されている点は評価できる。今後も継続したい。 ②生徒の希望に沿った進路指導を行った結果就職・進学ともに充実した進路指導ができたことは評価できる。今後もきめ細かい指導を継続する。	①農業体験活動やインターンシップ活動等への参加者の増加に伴う担当者の負担を考慮し複数配置や巡回指導体制を再構築する。  ②継続して、多様化する生徒の進路希望に対応するため、個別に丁寧な進路指導と進路ガイダンスの充実を進めていく。
4	地域等との協働	①学校の教育力(農業)を活かし、地域との協働・連携を一層強化する。  ②えびな支援学校との連携・交流を通して、インクルーシブ教育の推進を図り、いのちや人権を尊重する精神を育む。	①産業界との連携を進め、農業教育を活かした本校の活動を地域に発信し、コロナ禍以前の地域との協働活動を推進するとともに、4年間の目標の達成年度として、検証する。  ②えびな支援学校との連携・交流を様々な場面でを行い、インクルーシブ教育への理解を深める。	①デュアルシステムやインターンシップ、農業体験、農業クラブ校外活動を積極的に進め実践させることにより、地域や社会の発展を支える意識と態度を身につけさせる。  ②えびな支援学校と連携して、農業クラブを中心に動植物との触れ合いを通してインクルーシブ教育を深める活動を展開する。	①地域からの要望を踏まえつつ、コロナ禍以前の地域との連携・協働活動に近づけたか。令和4年度実績を上回ることができたか。  ②えびな支援学校との連携・交流を通して、参加した生徒の意識が変容したか。	①今年度は、文化祭や販売実習等で一般の方の来場を再開した。対面以外に、リモート併用型の行事が増えたため、農業クラブ活動をはじめとする教育活動が昨年度よりも充実した展開が可能となった。  ②科目「福祉と農業」のみならず、科目「課題研究」において農福連携授業を展開し、参加生徒の意識の変容がみられ、インクルーシブ教育の推進を行うことができた。	①より充実した農業の教育力を活かすために、さらに広く地域との協働や連携を図り、地域社会の発展を支えているという意識の改革や態度を身に付けることができるよう発展的に積み重ねる必要がある。 ②科目「福祉と農業」が最終年度となるため、次年度以降継続して連携授業ができるように連絡調整を密にしていく必要がある。交流後の意識アンケートをとることができず、次年度以降の課題となった。	①コロナ禍以前の地域との連携・協働状況や農業体験などの活動に近づきつつあり、また、対面以外にもリモート併用でむしろ充実した形も実現できており評価される。  ②農福連携授業により、えびな支援学校との連携・交流を通して、生徒の意識改革が見られ成果を見た。継続して交流を望む。	①コロナ禍以前の地域との連携・協働状況や農業体験などの活動に戻りつつある点は期待できる。今後は連携活動の文化が途切れたところの修復及び発展に向けた活動を進めていくことが課題となる。  ②農福連携授業により、えびな支援学校との連携・交流を通して、生徒の意識改革が見られた点は評価できる。今後はアンケート等の振り返りを行い客観的な改善点に向けた取り組みが課題となる。	①地域との協働・連携活動を進めるにあたりコロナ禍で途切れた文化の立て直しにむけて、職員及び生徒がともに活動範囲や方法について模索し、進めていく。
5	学校管理 学校運営	①学校施設環境を整備し、防災・防犯意識を高め安全教育を充実させる。  ②事故・不祥事防止の徹底を図り、信頼される学校づくりを推進する。	①学校施設環境の整備と大規模災害を想定した避難訓練や安全教育の充実を図り防災意識を高めるとともに、4年間の目標の達成年度として、検証する。  ②風通しの良い職場づくりを意識し、事故・不祥事防止の徹底を図る。	①安心して快適な学習施設環境を整備し、災害時における行動指針や連絡環境を整備・確認する。また、実験・実習において農作業器具等の取扱基準を順守し、事故をゼロにするよう取り組む。 ②業務の方針や進め方について情報共有を行い、特定の人に業務が集中することがないよう意見聴取等を行い問題点を洗い出し改善点を提示する。	①安全・安心な学習環境の整備が行えたか。また、実験や実習での事故防止ができたか。避難訓練等により意識向上が見られたか。  ②業務の見直しや業務分担が明確にされたか。分掌・グループ業務が計画どおり実施できたか。	①実験・実習における農器具等による事故は確認されなかった。集団下校班別避難訓練を実施し防災意識を高める機会となった。  ②情報管理システム管理部門を学習支援グループ内で独立させるなど各グループにおいて効率的な業務分担を実施した。	①避難訓練後の意識調査は実施していないが、引続き防災意識向上のため定期的な訓練を実施していく。実施後アンケートをとることができず、次年度以降の課題となった。 ②各グループ・分掌業務において、さらに業務改善を進められるよう検証し改善を目指す必要がある。	①実習・実験・授業でのケガなどなく出来た。避難訓練・防災意識の維持・向上のため、引き続き訓練の定期的な実施と来年度以降に生徒へアンケートによる確認を願う。  ②業務の見直し・業務分担が明確にされた。来期はさらに職場における情報共有とともに、DX化の推進等も進めていきたい。	①防災意識の維持向上のため集団下校班別避難訓練を実施するなど安全教育の充実を図れている。今後は継続した訓練と意識向上に向けたアンケートの実施が課題となる。  ②情報管理システム管理部門を独立させるなど各グループ業務の改善を実施した点は評価できる。職場における情報共有と業務改善をさらにすすめる。	①安全・安心な学校生活の実現に向けて、防災意識の向上とともに、老朽化した施設・設備を整備し、生徒の学習環境整備と事故防止に努める。  ②定期的な業務の見直しや組織として適切な情報共有と協力体制をとり働き方改革につなげる。

